

よろずは

平成二五年

十一月号

タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。

万葉文化館 おすすめ万葉歌

おほなむち すくなひこな
大汝 少彦名の いましけ
む 志都の石室は 幾代経
にけむ

万葉集 卷三―三五五 生石真人おふしのまひと

【意識】

大汝や少彦名がいらしたというこの志都の岩屋は、
いつたいどれほどの年月を経ているのだろう。

「大汝」「少彦名」とは、『古事記』『日本書紀』などにも登場する神様の名前です。オオナムチは、『日本書紀』には「大己貴神」として、『古事記』には「大国主神」の別名の「大穴牟遲神」として登場します。いずれも神話の中で、この国を造り天孫にゆづった神として描かれているといえます。そして国造りを一緒に行つたとされるのがスクナヒコナです。

この歌は、国造りをしたという二神ゆかりの「志都の石室」の、時を経て神々しい様子をたたえています。この岩屋が現在のどこにあたるのかは、諸説があつてはつきりしていません。大きくは島根県か兵庫県かで見解が分かれています。どちらも二神に関わり深い地であることが、『出雲国風土記』や『播磨国風土記』などからもうかがえます。

そんな風土記の編纂は、今から一三〇〇年前の和銅六年（七一二）に始まりました。

【万葉古代学係】